

出エジ8 出エジプト記6章1節～27節

「契約の更新」

1. 文脈の確認

- (1) モーセはエジプトに入り、活動を開始した。
- (2) イスラエルの民は信じた。
- (3) パロは、モーセの要求を拒否した。
- (4) 結果は、より過酷な労役
 - ①れんがを作るためのわらを与えられない。
 - ②生産量は維持せねばならない。
- (5) 民はモーセを憎んだ。
- (6) モーセにとっての信仰の危機が訪れた。
 - ①神は約束を守る方なのか。
 - ②なんのために自分はエジプトに派遣されて来たのか。
 - ③事態が悪化しているのに、神はなぜ動こうとしないのか。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 救出の約束（1～8節）
- (2) 元の姿に戻るモーセ（9～13節）
- (3) モーセの系図（14～27節）

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神を新しく知る。
- (2) 信仰を回復する。
- (3) 系図の意味を理解する。

このメッセージは、神を新しく知り、信仰を回復するためのものである。

I. 救出の約束（1～8節）

1. モーセの質問への【主】からの回答

- (1) なにもしていないのではない。
- (2) 「今にあなたにわかる」
「今や、あなたは、わたしがファラオにすることを見るであろう」（新共同訳）

- (3) パロはイスラエルの民をエジプトから出て行かせる。
- (4) そればかりか、追い出してしまう。
 - ①「強い手」とは神の手
 - ②比喩的言葉。神の主権による力がパロとエジプトに対して示される。

2. 神の自己啓示

- (1) 「わたしは【主】である」
 - ①「わたしは、『わたしはある』という者である」（3：14）と関係がある。
 - *自立自存の神
 - *自足している神
 - *すべてを包含している神
 - *いかなる限界もない神
 - ②契約の御名
 - *契約を守る神
 - *変わることはない神
 - *常に信頼できる神
- (2) 「わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神として現れたが、」
 - ①「全能の神」とは、「エル・シャダイ」。すべての必要を満たす神。
 - ②アブラハムは99歳で子孫の約束を受けた（創17：1）。
 - ③イサクがヤコブを祝福した（創28：3）。
 - ④パダン・アラムから帰還したヤコブへの祝福（創35：11）
 - ⑤子孫の祝福に関する使用法が多い。
- (3) 「【主】という名では、わたしを彼らに知らせなかった」
 - ①【主】は創世記に165回も出て来る。だから彼らはこの名を知っていた。
 - ②【主】は出エジプトに398回も出て来る。
 - ③ヘブル的には、名は単なるラベル以上のものであり、本質を表す。
 - ④イスラエルの民は、【主】の意味を体験的に知っていたわけではない。
- (4) 【主】という名は、契約を守る神の御名である。
 - ①神は、イスラエルの民にカナン之地を与えるという契約を彼らと結んだ。
 - ②その契約に基づいて、イスラエルの民をエジプトから解放することにした。

3. 民に語るべき3つの約束

- (1) 「わたしは、あなたがたを贖う」
 - ①伸ばした腕
 - ②大いなる裁き（10の災害）

- (2) 「わたしは、あなたがたの神となる」
 - ①イスラエルは神の民となる。
 - ②イスラエルは、【主】という御名の意味を体験的に知るようになる。
- (3) 「その地を、あなたがたの所有として与える」
 - ①アブラハム、イサク、ヤコブに語った内容

II. 元の姿に戻るモーセ (9～13)

1. モーセは命じられた通りにイスラエルの民に語った。
2. イスラエルの民は、モーセに耳を傾けなかった。
 - (1) 一度希望を持ったが、裏切られた。
 - (2) 落胆
 - (2) 激しい労役
3. 【主】からの語りかけ
 - (1) 民は放っておいて、パロに語れ。
「イスラエル人をエジプトから去らせよ」
4. モーセの応答

「ご覧ください。イスラエル人でさえ、私の言うことを聞こうとはしないのです。どうしてパロが私の言うことを聞くでしょう。私は口べたなのです」

 - (1) モーセもまた、落胆した。
 - (2) 人間の理屈を並べている。
 - (3) シナイ山麓で召命を受けた時の状態に戻っている (3 : 1～4 : 13)。
 - (4) 「わたしは口べた」を直訳すると「私は割礼のない唇です」。
 - (5) 比喩的に、不完全なものを差す。
 - ①エレ6 : 10
「誰に向かって語り、警告すれば／聞き入れるのだろうか。見よ、彼らの耳は無割礼で／耳を傾けることができない。見よ、主の言葉が彼らに臨んでも／それを侮り、受け入れようとしない」(新共同訳)
 - ②レビ26 : 41
「しかし、わたしが彼らに反抗して歩み、彼らを敵の国へ送り込んだのである。そのとき、彼らの無割礼の心はへりくだり、彼らの咎の償いをしよう」(新改訳)
 - ③使7 : 51

「かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、父祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです」(新改訳)

5. 神の命令

- (1) モーセとアロンに語る。
 - ①イスラエル人には、いかに行動すべきかを伝える。
 - ②パロには、イスラエル人を去らせよと命じる。
- (2) ブルドーザーのように前進する神。
 - ①民の不信仰
 - ②モーセとアロンの失敗
 - ③パロの敵意

Ⅲ. モーセの系図(14~27節)

1. ルベン、シメオン、レビで止まる。

- (1) モーセとアロンを紹介するための系図が挿入句として入る。
- (2) 4世代を紹介している。

2. レビの子の家系の名(レビは137年生きた)

- (1) ゲルシオン
 - ①リブニ
 - ②シムイ
- (2) ケハテ(133年生きた)
 - ①アムラム(137年生きた)

*アロン

- ・ナダブ(異なった火を捧げたので殺される。レビ10:1~7)
- ・アビフ()
- ・エルアザル(2代目の大祭司となる。民20:22~29)

ピネハス

- ・イタマル

*モーセ

②イツハル

- *コラ(アロンの従兄である。モーセとアロンに敵対。民16:1~3。)
- ・アシル

- ・エルカナ
- ・アビアサフ
- *ネフェグ
- *ジクリ
- ③ヘブロン
- ④ウジエル
- *ミシャエル
- *エルツァファン
- *シテリ
- (3) メラリ
- ①マフリ
- ②ムシ

結論： このメッセージは、神を新しく知り、信仰を回復するためのものである。

1. 神を新しく知る。

- (1) エル・シャダイから【主】へ
- (2) 「わたしは、あなたがたを贖う」
 - ① 「贖う」の意味
 - *親族が金を払って買い戻すこと
 - *死から救うこと
 - *エジプトから救出すること
 - *捕囚から帰還させること
 - ② 伸ばした腕 (天から地へ伸ばしたというイメージ)
 - *第1の贖いでは、伸ばした腕によってパロの長子が打たれた。
 - *第2の贖いでは、伸ばした腕によって神の子が打たれた。
 - *私たちの罪を赦し、神との交わりを回復させるために (マタ 27:51)。
- (3) 出エジプトを可能にした神は、日本のリバイバルも可能にするお方である。

2. 信仰を回復する。

- (1) 民の落胆
- (2) モーセの後戻り
- (3) 2～8節は、「わたしは【主】である」で始まり、同じことばで終わっている。
- (4) 自分に信仰があるかどうかではなく、神がどういうお方であるかが重要である。

3. 系図の意味を理解する。

- (1) 古代の異教の文学では、新しい神が登場し無力な神々に置き換わる。
- (2) 異教の神々は常に争っている。
- (3) 聖書の神は、人間が満たされた生涯を歩むことを願っている。
 - ①新しい方法で人間と係わり、人間を救おうとする。
 - ②しかしそれは、過去の啓示と調和した方法である。
- (4) モーセとアロンは、文脈を無視して突如現れたのではない。
 - ①アブラハム契約の延長線上にある。
 - ②神の啓示を受け取った民の中から、次の啓示を受け取る器が登場する。
- (5) 福音書の中のイエスの系図も同じ目的を持っている。
 - ①イエスの誕生は、アブラハム契約の延長線上に起こったことである。
 - ②イエスもまた、神の啓示を受け取った民の中から生まれたのである。
- (6) キリスト教は、歴史観である。